

令和8年度第1回青森市社会教育委員会議定例会議 会議概要

- 1 日時： 令和8年5月18日（月）13時30分～15時00分
- 2 会場： 青森市教育研修センター 5階 大研修室
- 3 出席者： 棟方 梢議長、石澤 千鶴子委員、泉 裕美子委員、伊藤 尚三委員、大鷹 依子委員、小笠原 秀樹委員、澤野 真希委員、長尾 信委員、三國 航委員
- 事務局： 教育次長 : 小山 信哉
文化学習活動推進課長 : 東條 英哲
中央市民センター館長 : 太田 慎二
浪岡教育課長 : 鈴木 謙一郎
市民図書館長 : 土岐 志保
文化遺産課長 : 児玉 大成

4 次第

案件等

- (1) 令和8年度社会教育委員関係年間予定について
- (2) 令和8年度青森市社会教育関係事業実施予定スケジュールについて
- (3) 令和8年度東青地区社会教育委員連絡協議会表彰について

その他

- (1) 令和8年度青森県社会教育研究大会について
- (2) 各委員からの社会教育に関する意見・要望等について

5 主な質疑応答、意見等

その他 (2) 各委員からの社会教育に関する意見・要望等について

<地域学校協働活動推進事業、コミュニティ・スクール推進体制構築事業>

(委員)

- ・青森県教育委員会の予算により、青森市内の様々な企業の方々が大・中学校へ直接出向き、職業講演を行っている。昨年も多くの学校で実施し好評だったが、この活動をより広げるためには、現在の予算と限られたプラットフォームの人数での実施では、これ以上希望があっても行うことができない。県がやっていることに、市もアドバイスしながら一緒にやることができればよりいいのではないかと思うので、もし意見があれば聞かせてほしい。

(事務局)

- ・各コミュニティ・スクールの活動の中で職業体験や職業講話をそれぞれ行っており、そことの連携も1つの方法としてあるのではないかと思う。
- ・予算については、市は市、県は県となっており、一緒にとなると調整等なかなか難しいところである。

(委員)

- ・千川地区では、地域にいる大人の方々（例えば床屋さんなど）に職業講話を依頼しているが、OG・OBということで地域のためならというご厚意から、「手弁当でもよい」という形でご協力いただいている。
- ・職業講話は、子どもたちが近くで活躍する職業人に触れることにより「私もこの地域を盛り立てる」、「この仕事をしてこんな風になりたい」という未来像が見え、お金もあまり掛からない地域力を高める活動にもなるのではないかと感じている。

- ・お金を掛けずに地域力を盛り上げていくやり方こそが社会教育だと思うので、知恵を出し合ってやっていけばさらに良くなると思う。
- ・色々な事業をやっていて思ったことだが、お金がつくことは3年持てばよい方なので、お金がなくてもやれるような仕組み作りにお金を掛けるようなことがもしかしたら今後の地域には必要なのではないかと思う。

(委員)

- ・県の予算は、講師の方に使うお金なのか。

(委員)

- ・講師の方にも、企業から来ていただく方にも0円である。
- ・会場費や色々なものを印刷することにお金が掛かるため、人件費にお金を掛けることはできない。

(委員)

- ・浪岡中学校では2年生を対象に、浪岡地区の職場に赴いて約2~3日間の職業体験を長年行っている。これに関しては、全く予算はなく、推進員が地区の企業に受入れをお願いしており、学校の方でも授業の一環として活用している。
- ・2020年のコロナ禍に職場体験が中止になったため、職業講話という形で、卒業して10年未満の先輩たちに来てもらい、それぞれの仕事について話をさせていただいた。
- ・コロナ禍が終わった時に職業講話は終わったが、今年のコミュニティ・スクールでは、職業体験と職業講話の両方を実施したいという学校側の要望があり、とても進化している。コミュニティ・スクールの働きも良くなり、職業体験も充実してきている。

(事務局)

- ・職業体験については、文化遺産課では我々職員が、例えば遺跡を発掘したりなどのスキルを持っている。毎年、浦町小学校から呼んでもらい職業体験や職業講話をしている。中には、土器づくりなどの体験があり、お金はほとんど掛けずにやることができる。

(委員)

- ・職業体験に関連して、NPO法人が行っている「ヒューマンライブラリー」というイベントがある。本役の人と対話者が1対1で話をするもので、私たちの場合は本役の人に謝礼は払っていない。1対5程度で自身の経験談を話すといった手法であれば、地域のお店をやっている人が「子どもたちのためならやろうかな」となる。

(委員)

- ・小学校の行事では親御さんが「自分の子ども」ばかりを見て、周囲には目を向けていない。親子共にもう少し全体を見ながら大きく育ててほしい。
- ・今の授業はタブレットなどを使ってすぐ答えが出るようになっている。それにより、自分で考えて答えを出すことがなくなり、今の社会の事件や事故を見ると、自分でよし悪しを考えられない子どもが増えている気がする。

(委員)

- ・PTAは任意加入のため会費を納めない方がおり、その結果、卒業の時に記念品が貰えないことでトラブルになることがよくあるパターンである。
- ・町会で生きていることを子どもたちに伝えることが重要であり、その責務をコミュニティ・スクール含めて担っていると考える。

(委員)

- ・中学校になっても、親御さんの目線としては「自分の子ども」という視点が強い。

- ・自分の子どもだけでなく、全体を見ての関わり方や、さまざまな活動を通していろんな子どもたちと関わりがあると思う。保護者の方々は、実際にそばで見るとは難しいと思うが、レンズ越しでも何か感じるものがあると思うので、機会があればお話できたらと思っている。

<図書資料整備事業・読書活動推進事業>

(委員)

- ・本の貸出を、通帳で行っているのをテレビで拝見した。独自のものだと思っていたが、全国の各自治体でも取り組んでいるところがあった。もし可能であれば小さい子どもも含めて楽しめると思うので、調査も含めてこれからやることができればいいなと思う。

(事務局)

- ・全国で通帳のような形でやっていることは知っており、ぜひ参考にさせていただきたい。子どもたちへの貸出が減少気味なので、少しでも興味を持ってもらえるよう取り組んでいきたいと思う。

(委員)

- ・長年読み聞かせのボランティアをしてきたが、何年か前は、参加者が0ということにはなかった。本離れを切実に感じる。ここ1、2年は、地域で月の第2日曜日などと決まった日に読み聞かせを続け、ある程度は周知されているが、子どもたちが忙しいのか、デジタル化の進行も影響してか、活字から離れていっていることをひしひしと感じる。
- ・図書館や読み聞かせなどのイベントにどうすれば人が来てくれるか、皆さんの意見を頂戴したい。

(委員)

- ・六ヶ所村の図書館では、一定数本を借りた方に図書券をプレゼントしていた。入口はどうであれ、本に触れてもらうきっかけになるなら良いことだと思った。子どもたちも図書館に行くことを楽しみにしていたので、餌で釣る感じはよくないかもしれないが、子どもたちにとっては良いと思う。

(委員)

- ・むつの図書館や科学館はポイントが貯まる仕組みがあり賞品がもらえる。科学館は同じようなものしかないが、例えばワークショップがあるだけで、ご褒美がなくても行くようになることがあった。このようなファーストステップがあると行きやすくなり、そこからはご褒美なしでも行けるようになるのかなと思う。通帳ではなくても、今日は何冊借りたなどのスタンプなどでも子どもに関しては良いと思う。

(委員)

- ・本で学ぶ機会は大事だが、スマートフォンに売っていたりすることもあり、自分の子どもを見ても実際に本を買う機会は少なくなっているのではないかと思う。

<家庭教育支援事業、生涯学習支援事業（中央市民センター）>

（委員）

- ・家庭教育講座を2ヶ月ごとに行っているが、参加人数が少なく、年々減少している。市民センターやプラネタリウム、浪岡でも毎月たくさんの講座を実施しているが、長期的な視点から見たときに参加人数の推移はどうなっているのかを教えてください。

（事務局）

- ・子どもの講座への参加は減少傾向にあるので、毎年、様々な趣向を凝らした講座を行うようにしている。
- ・要因としては、子どもの絶対数の減少と、外に出たの講座を学ぶ機会の減少が考えられる。

（委員）

- ・人口減少であるため、単純に参加人数の増減のみから判断するのは正しくない。母数（人口）を考慮した分析が必要である。

（委員）

- ・青森市PTA連合会で、かつてねぶた祭りの参加人数が少なく、「500人以下なら中止」というルールにしたところ逆に参加人数が増加し、今では約2000人が参加している。事業のやり方次第で増やせると考えている。

<あおもり北のまほろば歴史館企画運営事業>

（事務局）

- ・あおもり北のまほろば歴史館では、毎年6月末頃に大きなイベントを開催している。去年は、中身を変えて「妖怪祭」を開催したところ、展示物との相性が良く、参加人数が例年4000人前後のところ8000人集まった。しかし、それによる駐車場が車であふれるなどの問題も生じたので、今年度は駐車場を増やすことを考えている。さらに、熊が出た場合にイベントを中止するかどうかなどの判断やリスクマネジメント等もある。

<棟方志功記念館について>

（委員）

- ・棟方志功記念館を今後も版画教室や絵画の展示会等で活用していこうというのを新聞記事で見たが、市はこの企画の管轄からは離れてしまったのだろうか。

（事務局）

- ・当該案件は文化学習活動推進課が担っている。一般財団法人棟方志功記念館がコロナや建物の老朽化をきっかけに館を閉めたことから始まり、県・市・財団の3者で様々な協議・検討した上で、昨年度に棟方志功記念館建物の利活用方針として「5つの学び」を作成した。
- ・棟方志功記念館は改修を予定しており、今年度は建物のバリアフリー化やアスベスト除去などの調査設計を行い、その後2年くらいはかかるのではないかと考えている。